

くまそう

vol. 25 25.
01.

winter season

Kumagaya
General
Hospital
News Letter

CONTENTS

新年のご挨拶

中村理事長 今野病院長

診療科紹介 眼科

部署紹介 診療情報課

JA共済連埼玉様からデジタルX線
透視装置を寄贈されました

まちの医療機関

入職医師紹介

くまそうTOPICS

2025年 新年のご挨拶

理事長 中村 信一



皆様、明けましておめでとうございます。

本年も当院、熊谷総合病院をよろしくお願い申し上げます。

昨年、京都の清水寺で発表された2024年の世相を表す漢字は「金」でした。オリンピック・パラリンピックの日本人選手などの活躍による光（栄光）をあらわす「金（キン）」と、政治の裏金問題などの影をあらわす「金（カネ）」の2つの意味を示すとのこと。同じ「金」という文字でも、その使われる文脈においてその印象が180度かわってしまい非常に残念です。やはり「金」は常に栄光をあらわす「金」の文字であって欲しいものです。この小誌をお読み戴いている皆様は昨年2024年を表す漢字としてどの一字を選ばれたのでしょうか？

私、病院運営者としては「活」を選ばせて頂きました。

この「活」ですが、当院の職員一同、昨年もまた一丸となって地域医療に貢献すべくそれぞれの職務に活発に取り組んで参りました。本当にありがたいことです。その長年の努力と診療実績が県に認められ昨年、「埼玉県がん診療指定病院」の認可を頂きました。「埼玉県がん診療指定病院」とは地域の皆様に「質の高いがん医療」を提供するために必要な優れた医療・相談・情報提供体制を備えた医療機関であると埼玉県が認めたがん診療病院のことです。県が定めた医療圏ごとに原則として一ヶ所だけ指定される病院です。我々、この認可を診療の励みにしてこれからも弛む事なく最新の医療を地域に提供し続けてゆきたいと考えます。この他、昨年の診療を顧みますと新入院患者さんの総数は一昨年2023年と比べ491名増加し7,138名となりました。また、6室ある手術室の手術症例数も増加して昨年は2,525例(全身麻酔症例数は1,757例)でした。救急医療につきましては当院への救急車収容依頼総数が増加し昨年の受け入れ件数は4,315名（2023年の3,742名から573名の増加）、1日あたり平均11.8名（2023年は10.2名）の救急搬送患者さんを受け入れる地域の病院とし活躍いたしました。まだまだ完全とは言えませんが、それなりの役割を果たしたかと考えます。以上、この様に我々熊総、地域の総合病院として活気に満ちた一年となりました。その意味で私、活発、活気、活躍の「活」を選んだ次第です。

我々、熊谷総合病院職員一同、今年も引き続き地域に根差し地域に求められる病院、最新医療を提供する地域完結型病院を目指して行きますので、これまで以上に我々熊谷総合病院をよろしくお願い申し上げます。

2025年 新年のご挨拶

病院長 今野 慎



新年あけましておめでとうございます。

2025年が皆様にとってより良き年になることを祈念申し上げます。

コロナの終息を待たずにインフルエンザが蔓延し、我々の前に立ちふさがる感染症の脅威を目の当たりにしているところですが、我々にはコロナ時代に培ってきた知識と経験があります。次の感染症が何であれ、我々は叡智を絞ってそれを乗り越えることができると確信しております。

様々な感染症への対策、より多くの救急患者を受け入れるための急性期病床への転換、診療報酬改定への対応など、当院はここ数年その都度対策を講じ、成果を上げることが出来ました。今年は将来を見据え、情報の発信を充実させる2025年にしたいと考えています。

ブランディングという言葉をご存知でしょうか。地域に根ざした医療を目指す当院と、いわゆる“ブランド”とは一見、相い反する言葉のように見えますが、選ばれる病院を目指す＝ブランディングは病院にとっても重要なテーマです。ブランディングには2つあり、当院の良さを地域の人々をはじめ多くの人に知ってもらい病院の特色を出す“アウター”ブランディング、そして職員が病院を愛し、自信、誇りを持って働く原動力となる職員に向けた“インナー”ブランディングがあります。アウターブランディングにはホームページやSNSを用いた情報提供、病院祭をはじめとしたイベントの継続開催が、インナーブランディングとして職員の処遇改善、ストレスなく、働きやすい職場環境作りなどが挙げられます。このように患者さんだけでなく職員にも選ばれる病院を目指し、真の意味での“くまそう”ブランドを高め、醸成する1年間にしたいと思います。

当院の前身の病院設立から今年で80年になります。我々は未来永劫、埼玉県北部地域の医療の中心となる決意、覚悟を持ち続けたいと思っています。

地域の皆様には今後も温かいご支援とご意見、ご指導を賜りたく存じます。本年もどうかよろしくお願ひ申し上げます。



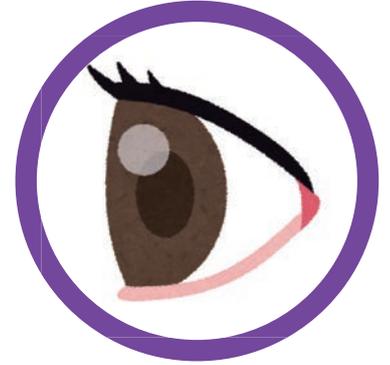
眼科 医長 新竹 広晃 先生

専門 眼科疾患全般
資格等 日本眼科学会専門医
身体障害者福祉法第15条指定医
PDT認定医
視覚障害者用補装具適合判定医
難病指定医
臨床研修指導医



● 当院眼科で扱う疾患について

当科では小児から高齢者まで眼科全般の診療を行っております。
白内障や緑内障の他、糖尿病網膜症や網膜静脈閉塞症などの網膜血管疾患、
加齢黄斑変性や黄斑前膜などの黄斑疾患、斜視・弱視など多岐に及びます。



● 主な疾患と治療について

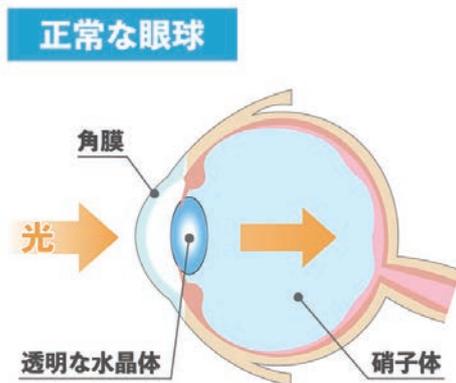
◆ 白内障

目の中のレンズ(水晶体)が濁って見づらくなってしま病気です。

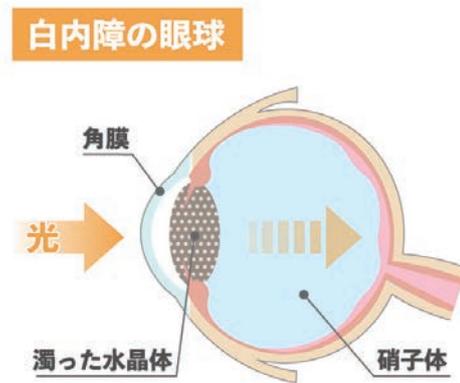
ピント合わせの機能をする水晶体は、若い時はゼリーのように柔らかく透き通っていますが、40歳を過ぎた頃から徐々に硬さを増し、さらに60歳にかけて次第に黄色くあるいは白く色づいてきます。

白内障の治療は、病状の進行具合によって異なります。日常生活に支障がない初期の段階では経過観察としたり、点眼治療もありますが、水晶体が元に戻るわけではありません。視力低下をきたしたり、日常生活に支障を感じるようであれば手術治療を考えます。

手術は基本的に局所麻酔で行います。点眼麻酔と、目の周囲に麻酔薬の注射を追加することもあります。強い痛みを感じることはあまりありません。目の表面をほんの数ミリ切開し、濁った水晶体を超音波で砕きながら取り除き、そこへ人工の水晶体である眼内レンズを挿入します。当院では日帰りまたは1泊の入院で行っております。



透明な水晶体は光を十分に通します。



水晶体が濁り、光が通りにくくなります。

◆ 緑内障

緑内障は本邦における失明原因の第1位となっている疾患です。

緑内障は一般的には眼圧が上昇することで、視神経が障害されることで視野障害を来すと考えられておりますが、日本人の緑内障は正常眼圧緑内障と呼ばれる一見眼圧が正常にもかかわらず視野障害が進む病型が多いと言われております。重要なのは、一度失われた視野は回復することはないということです。

治療法は点眼、レーザー治療、手術などがありますが、いずれも眼圧を下げるのが目的であり、失った視野が回復することはありません。緑内障患者は初期では視野の異常を自覚できず、視野異常を自覚した頃には非常に進行してしまっている場合があります。40歳を超えた方は、人間ドックなどで眼底検査を受けることをお勧めします。



消えている箇所(視野欠損)があります。頭の中で勝手に背景を補い、全て見えていると錯覚してしまいます。



消えている箇所に加え、ぼやとしたかすみが出現し、拡大していきます。



鮮明に見える範囲が狭くなっています。(視野狭窄)

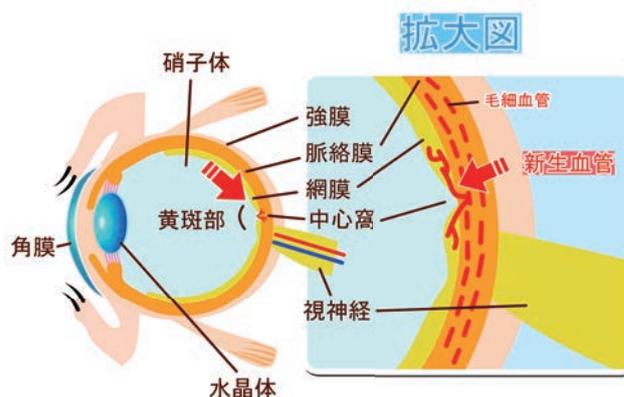
◆ 加齢黄斑変性

欧米先進国で失明原因第1位となっている疾患で、日本でも近年、生活の欧米化により増加しており、失明原因の第4位となっています。黄斑とは網膜の中心にある直径1.5mm～2mm程度の小さな部分です。その黄斑部が年齢を重ねるとともに障害される病気が加齢黄斑変性です。

加齢黄斑変性は萎縮型と新生血管型とに分類されます。萎縮型は網膜色素上皮が徐々に萎縮していき、網膜が障害され視力が徐々に低下していくタイプです。新生血管型は異常な血管(脈絡膜新生血管)が脈絡膜から網膜色素上皮の下あるいは網膜と網膜色素上皮の間に侵入して網膜が障害されるタイプです。出血したり、網膜がむくんだり(網膜浮腫)、網膜下に液体が溜まります(網膜下液)。加齢黄斑変性の症状は、視力低下、真ん中が見えなくなる中心暗点、物が歪んで見える変視症などが生じます。

加齢黄斑変性の治療

萎縮型は残念ながら有効な治療法が現在ありません。新生血管型にはいくつかの治療法がありますが、完全に元通りに回復させることは難しいことが多いです。新生血管の拡大を抑え退縮させ、視力を維持あるいは改善することが目標です。現在、最も一般的な治療法は抗血管内皮増殖因子(VEGF)阻害薬の硝子体注射です。現在、認可されている抗VEGF薬は数種類ありますが、いずれも初期は1か月ごとに3回注射します。その後も疾患の活動性に応じて注射の間隔を調整する方法や、活動性がみられた際に再度注射を行う方法などがあり、いずれも長期的な治療の継続が必要です。その他に光線力学的療法やレーザー光凝固術なども行われることがあります。



当院を受診される際は紹介状をお持ちください 紹介状なしで当院を受診する場合は選定療養費がかかります

一般病床数が200床以上の地域医療支援病院を紹介状なしで受診する場合、保険適用の診療費とは別に選定療養費として国が定める料金をご負担いただいております



部署紹介 診療情報課



当課は診療情報管理と医師事務作業補助を行っております。

診療情報管理

診療記録と情報を正しく管理し、データの分析、加工をすることによって医療の質を高める事を目標とした医療情報の管理を行っております。

中でもコーディングという作業は診療情報管理業務で最も専門性の高い業務といえます。

これは国連世界保健機構（WHO）が管轄する国際的な疾病分類基準（通称「ICD」）に基づいて患者様の病気を分類する作業の事です。

分類した疾病情報は厚生労働省に提出し、様々な分析に使用されます。

その他にも院内がん登録、個人情報開示、警察や検察、裁判所等からの照会に対する対応やカルテの監査等様々な情報のお取扱いをしております。

また、患者様からのカルテ開示についても随時受け付けておりますので、ご相談下さい。



※ カルテ開示の内容や費用、手続きにつきましてはインターネットで「熊谷総合病院 カルテ開示」でご検索いただくか右記QRコードからのアクセスをお願いします。



医師事務作業補助者

名前の通り、カルテ入力や診断書作成などの医師が行う事務作業を担う職種となっており、主に外来診察補助や書類作成補助やデータ統計業務を行っております。

医師の業務は多岐にわたり激務となっております。

そのため、我が国では医師業務の負担軽減を図ることを目的とした施策として2008年より医師の事務的な業務を補佐する「医師事務作業補助者」という職種が誕生しました。

当院でも、2011年より医師事務作業補助者が介入し、医療の質を高めるため、日々邁進しております。





外来診察補助



患者様にスムーズに診察を受けて頂くことを第一に考え、日々医師や多職種と連携し、外来診察補助を行っております。

医師の指示の下でカルテの代行入力や検査オーダーの代行入力を行うために診察室に同席させて頂いております。

このような事務作業を医師事務作業補助者が行う事で、患者様と医師が向き合える時間が少しでも多く作れるよう介入させて頂いております。

(※記載したカルテ内容や検査オーダーは医師が確認しております。)

また、問診や検査の説明も医師事務作業補助者が介入させて頂いております。案内時においてご不安な点やお困り事がございましたら、お気軽にお声掛けください。



書類作成補助



患者様からたくさんの書類作成のご依頼を頂いております。出来るだけ早くお手元にお届けできるよう医師事務作業補助者が作成補助の介入をしております。

(※作成補助をした書類は医師が確認してから出来上がりとなります。)



データ統計業務

当院各科の症例についてカルテを確認しながら各学会提出用の医療データの集計や登録を行っております。各科毎に年間数百件を超える医療データの統計業務に医師事務作業補助者が介入することで医師業務の負担軽減の一端を担っております。



JA共済連埼玉様の健康増進支援事業として デジタルX線透視装置を寄贈いただき設置しました



デジタルX線透視装置は、内視鏡に特化した先進機器であり、健診や診療の精度向上に寄与します。これにより、正確な診断と治療が可能となり、患者の健康管理を向上させる重要な役割を果たします。

今後、社会医療法人熊谷総合病院において、医療の質の向上と患者様に安心していただける医療に大きく貢献すると期待されます。



～くまそうの医療連携パートナーをご紹介します～

まちの医療機関

No.030

平田クリニック

- 診療科 産科・婦人科・内科・小児科
- 住所 熊谷市肥塚 4-205
- 院長 平田 善康 先生
- 駐車場 60台
- 診療所の特徴

産科では、経験実績の豊富な医師のもと、お母さんや赤ちゃんに寄り添った優しいクリニックであるよう心がけております。また、婦人科では月経困難症から不妊に悩まされている女性、そして更年期まで、女性のライフステージに合わせた、質の高い医療とケアを提供し、ご家族の健康管理をさせていただきます。内科・小児科では、お子様の予防接種から成人病まで、幅広い医療をご提供しております。

■ 院長先生のコトバ・大切にされていること

安全・安心・快適で丁寧な医療を提供し、これからも多くの皆様に愛され安心してご利用できるクリニックを目指してまいります。

TEL:048-526-1171(産婦人科)
TEL:048-520-2255(内科・小児科・小児専門外来)
<https://kumagaya.hirata-clinic.com/>



	月	火	水	木	金	土	日
AM 9:00~12:30	●	●	●	●	●	※	-
						9時-13時	
PM 15:00~18:00	●	●	●	※	●	-	-
				15時-17時			

■ 産婦人科・婦人科 ※ 木(午後)15:00~17:00です。受付終了は診療時間の30分前です。

初診の方は診療時間終了の45分前までにお越しください。

■ 内科・小児科 ※ 土(午前)9:00~13:00です。

No.031

森田皮膚科クリニック

TEL:048-501-1141
<https://www.moritahihuka.jp/>



- 診療科 皮膚科
- 住所 熊谷市太井 1640-2
- 院長 森田 貴史 先生
- 駐車場 30台
- 診療所の特徴

乳児から大人までの皮膚科全般の治療を行っております。ケミカルピーリングやIPLによるシミなどの美容治療も行っています。

巻き爪に関しては3TO(VHO)法による矯正治療を行っています。痛みが少なく負担の少ない治療を心掛けています。

■ 院長先生のコトバ・大切にされていること

患者様に精神的、身体的等において負担の少ない治療を心掛けています。



	月	火	水	木	金	土	日
AM 8:45~12:00	●	●	-	●	●	●	-
PM 14:45~18:00	●	●	-	●	●	-	-

■ 休診日 水・土(午後)・日・祝

※初診の方、2か月以上空いての再診の方、前回と違う症状の診察希望の方は受付終了時間30分前までに来院して下さい。時間過ぎての受付は基本的にはお受けいたしておりません。また、混雑時は早い時間に受付を終了することがあります。当院は、予約はお取りできません。



入職医師紹介



- 氏名
- 専門
- 出身大学
- 資格

nishida masaaki

西田 昌昭

麻酔科 部長

埼玉医科大学

日本循環麻酔科学会指導医・専門医

日本蘇生学会指導医

ICD(インフェクションコントロールドクター)

BLSインストラクター

ACLSインストラクター

卒後医師臨床研修プログラム責任者

看護師特定行為研修指導者

○自己紹介・あいさつ

質の高い麻酔の提供に加え、麻酔科をローテーションで学びにくる研修医の指導には特に力を入れていきたい。将来どの診療科に行っても役に立つ麻酔科の技を伝えたい。

くまそう
TOPICS

10/5

くまそうフェス2024



当日は悪天候にもかかわらず約400名の方にご来場頂きました。大迫力の熊谷高校応援団やメゾプラノコンサート、各種体験や災害看護展示。公開講座の粛々としたご講演から、突然の東松山千春（形成外科栗原医師）ゲリラライブもあり、大盛り上がり的一天となりました。



11/7 地域医療連携セミナー



熊谷市、深谷市、行田市等の医師、看護師、メディカルスタッフを対象とした地域医療連携セミナーを開催しました。（現地、WEB配信とのハイブリット）講師として埼玉医科大学病院 アレルギーセンターセンター長 永田 真先生にご登壇いただき、「成人の食物アレルギー」の題目にてご講演いただきました。



11/15 リハビリテーション科 4年目職員研修（装具操作）

リハ科では病院理念の達成のために職員研修カリキュラムに基づき、1～5年目の研修（講義・実技）を行っています。この日は麻痺のある患者さんに使用する装具について、理学療法士の羽鳥主任が実技研修を担当しました。4年目の理学療法士からは、「あいまだった部分が理解できた。さらに理解していきたい。」と報告がありました。



12/6 地域連携講演会

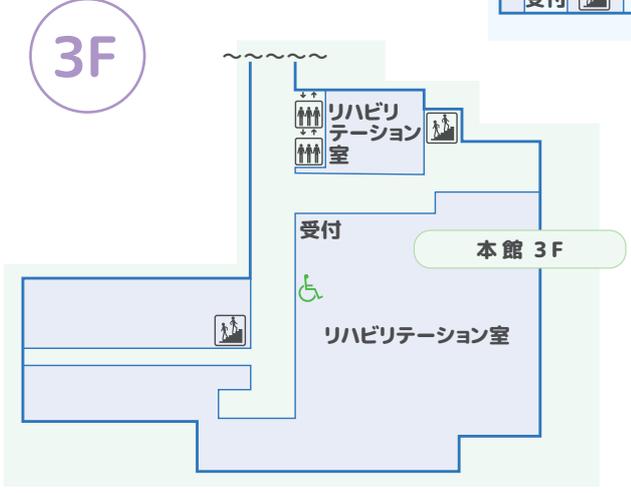
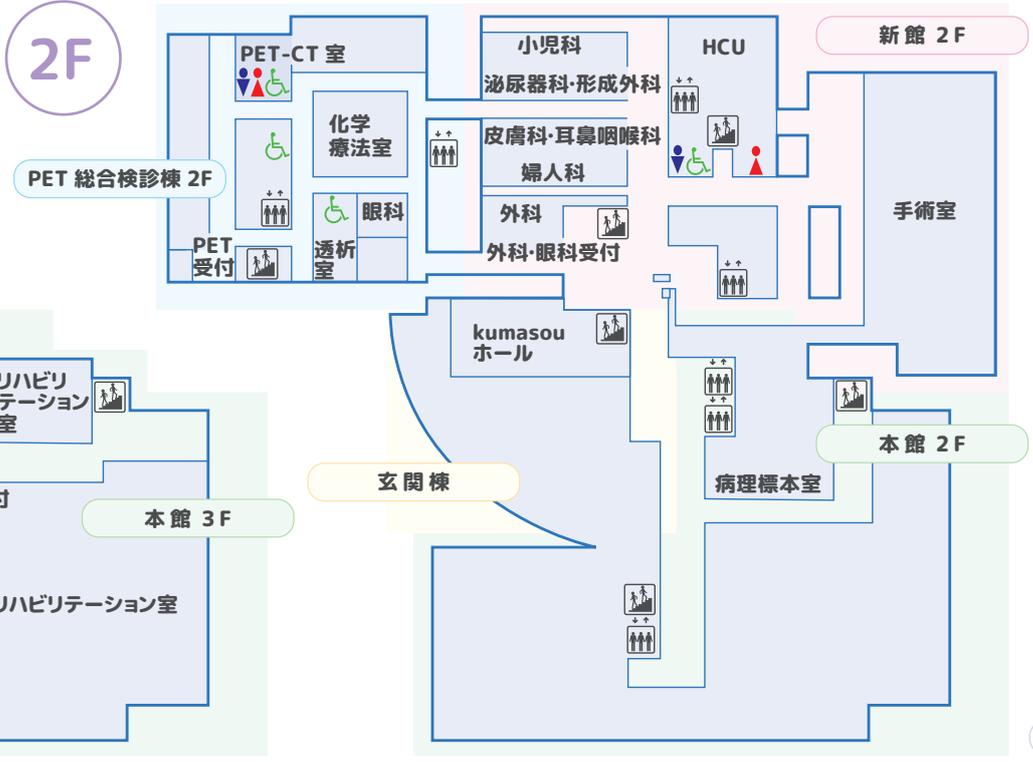
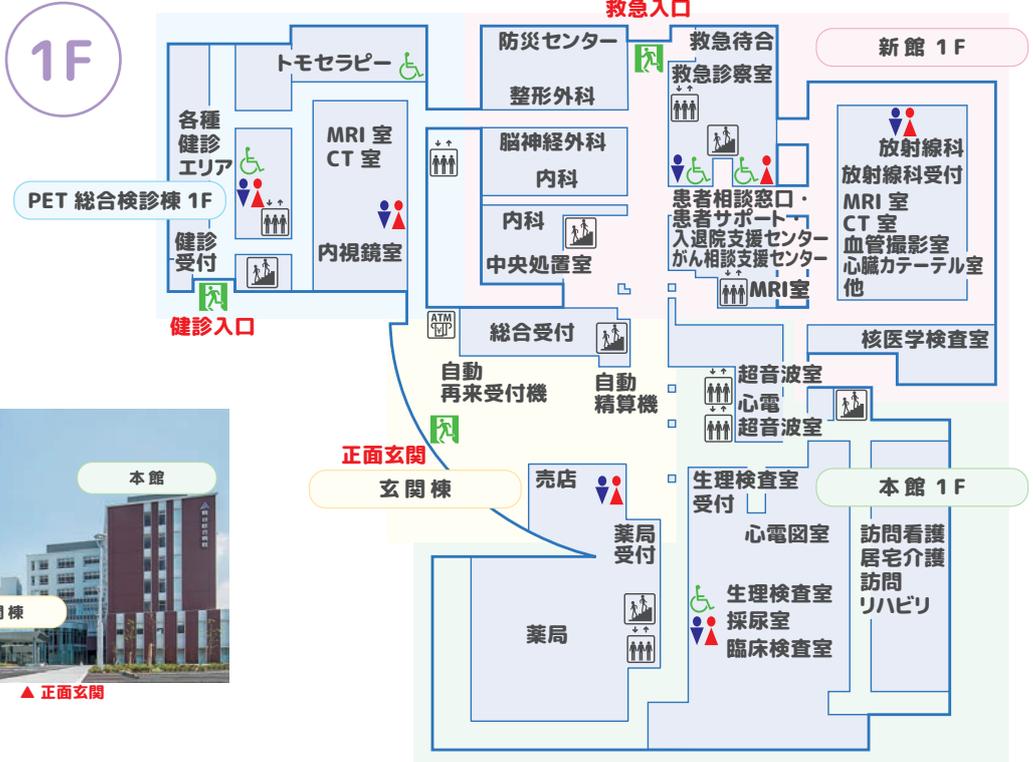
埼玉医科大学、かわごえクリニック院長 屋嘉比 康治先生、「六君子湯はなぜ食欲を改善するのか？そのメカニズムの科学的知見」の題目にてご講演いただきました。

12/13 第2回 Kumakumaカフェ がん患者サロン

kumakumaカフェでは、医療講座とおしゃべり会を開催しています。今回は放射線治療について質疑応答。おしゃべり会では水引リースを作成しました。



くまそう 院内マップ 1F～3F



病院理念

わたくしたちは、この地に歴史をきざむ熊谷総合病院に勤める医療人です。
 わたくしたちは、この地にふさわしい専門的視野と未来への展望に立って、ここに新生熊谷総合病院の病院理念を制定いたします。

- 一. わたくしたちは地域の一員として、すべての患者さんを心あたたかく迎え入れます。
- 一. わたくしたちは地域の医療を常に高く保つため、みずから進んで学習します。
- 一. わたくしたちは地域の未来をになう若き医療人の育成に励みます。
- 一. わたくしたちは地域の必要に応える最新医療を提供し続けます。

そしてわたくしたちは地域のあらゆる機関と協力して世界に誇れる病診連携をこの地、熊谷に築きあげます。



日本医療機能評価機構
 認定第JC2211号
 機能種別版評価項目
 (3rdG:Ver2.0 一般病院2)



〒360-8567 埼玉県熊谷市中西4-5-1
 TEL:0570-099-080(ナビダイヤル) FAX:048-523-5928(代)
<https://www.kumasou.or.jp/>

